

I. 経緯

No.	遺跡名	所在地	原因者	面積	調査期間
1	西ノ原遺跡第11地点	大井町大字苗間字西ノ原 143-4番地	堀井 信義	198m ²	昭和58年 5月23日 ～ 5月27日
2	東久保南遺跡第2地点	〃 亀久保字東久保 546-2番地	内田 喜一	264m ²	5月30日 ～ 6月6日
3	東久保南遺跡第3地点	〃 亀久保字東久保 549-4番地	鈴木 正一	326m ²	6月7日 ～ 7月4日
4	西ノ原遺跡第12地点	〃 苗間字西ノ原 123-3番地	塩野 磯男	330m ²	7月6日 ～ 8月11日
5	西ノ原遺跡第13地点	〃 苗間字西ノ原 114-6番地	塩野 好弘	350m ²	9月13日 ～ 10月18日
6	西ノ原遺跡第14地点	〃 苗間字西ノ原 143番地	堀井 保夫	240m ²	10月24日 ～ 11月7日
7	苗間東久保遺跡第9地点	〃 苗間字東久保 642-1番地	堀井 昌平	660m ²	11月8日 ～ 12月5日

表2 昭和58年度発掘調査一覧表

件、農地の天地返し1件であった。調査総面積は2,368m²である。No.7の苗間東久保遺跡を除いては、すべて市街化調整区域に位置し、分家住宅、住宅の拡張等による宅地造成である。今後、富士見市勝瀬に予定されている東武東上線の新駅設置に関連して、今回調査の3遺跡は、駅への至近距離にあり、ますます開発が進む地域であり、十分な調査計画と保存対策が求められてくることになる。

2. 調査事業の経緯

5月23日からの、西ノ原遺跡第11地点の発掘調査を皮切りに、報告書刊行までの調査事業の経緯は表3のとおりである。

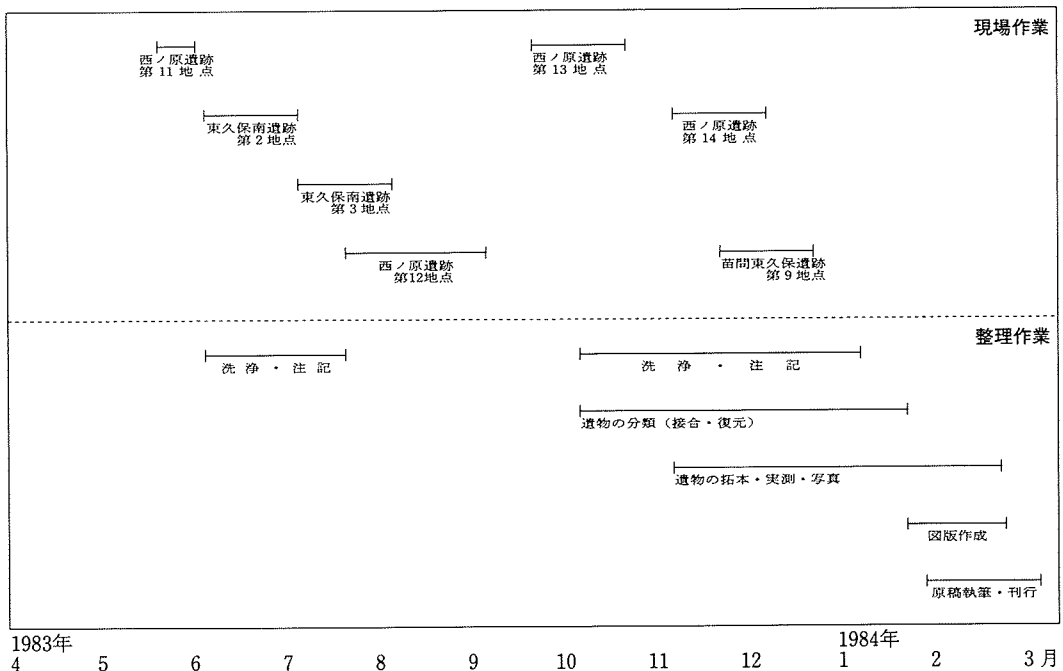
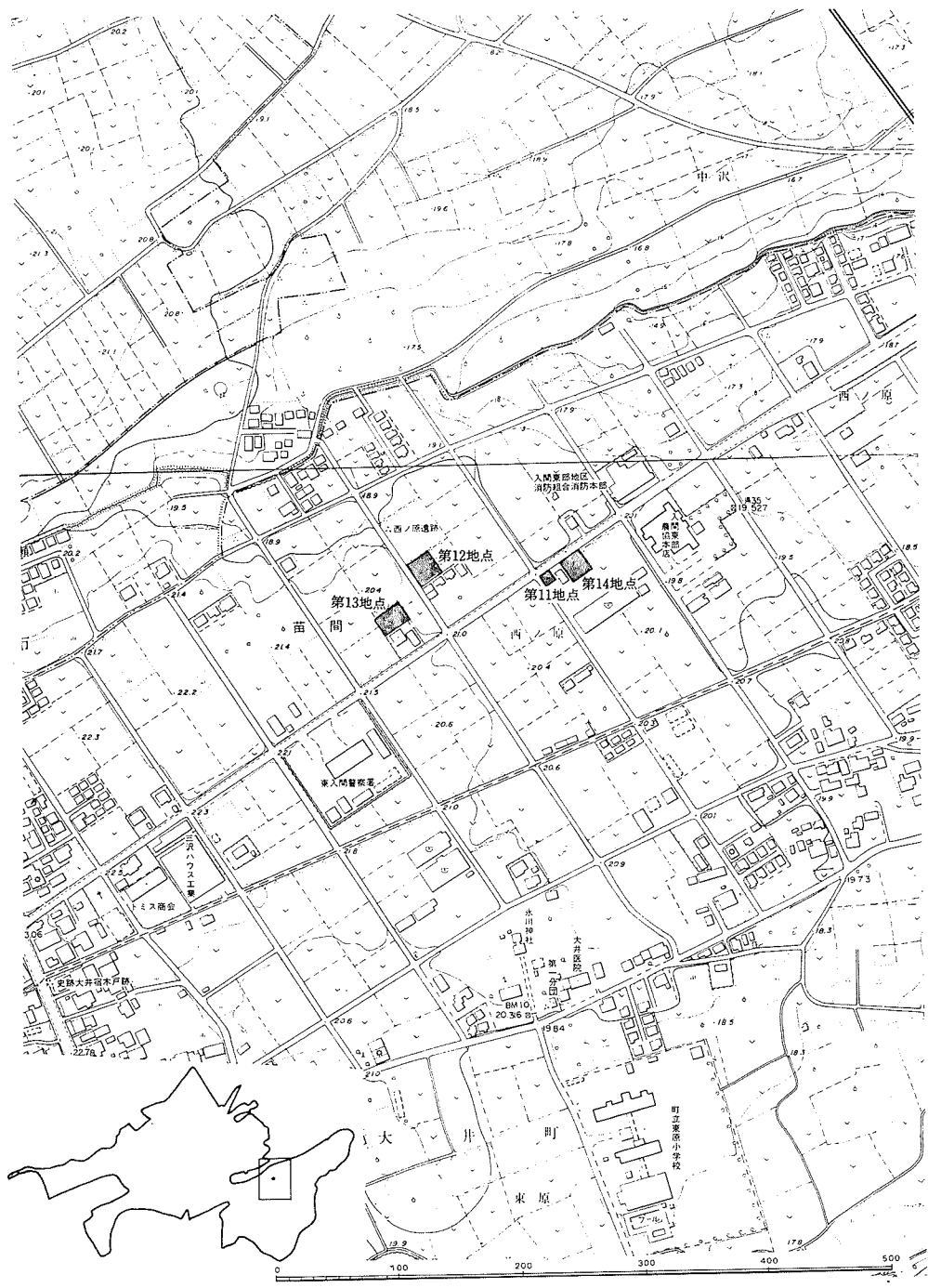


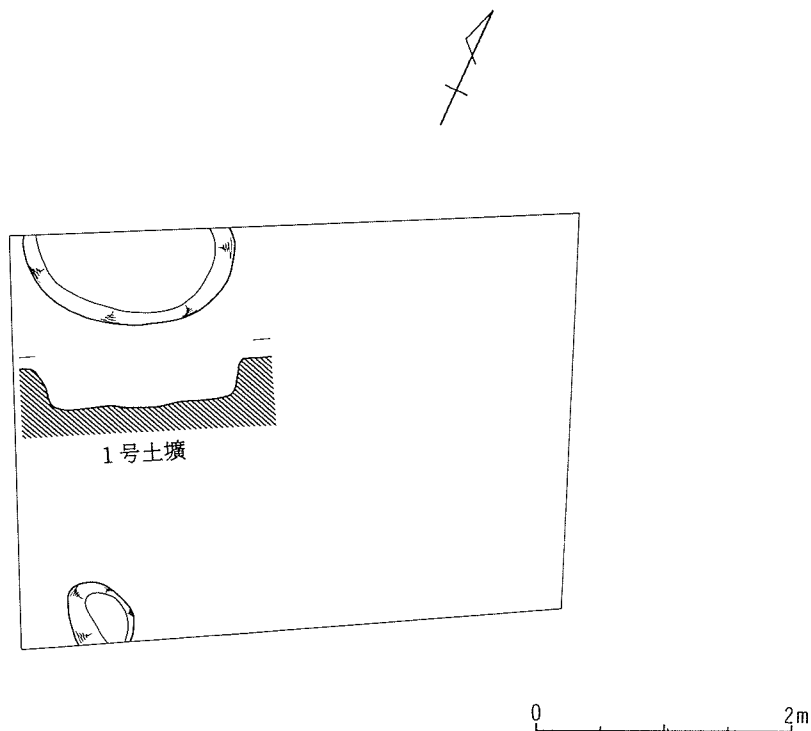
表3 事業の経緯

Ⅲ. 西ノ原遺跡第11地点



第 5 図 西ノ原遺跡の地形と調査区 ($\frac{1}{5,000}$)

1. 遺跡の立地と環境 2. 調査の概要と経過

第 6 図 遺 構 図 ($\frac{1}{60}$)

1. 遺跡の立地と環境

今回の調査区は遺跡の南東部に位置し、北方の台地へりから約200mほどはいり込んだ地点である。標高は20.5mを測り、西から東にのびる狭小な浅い谷との比高差は5.5mである。現在、西ノ原遺跡全域は市街化調整区域で、遺跡の蚕食的な開発は市街化区域と比較した場合、ゆるやかなものの、分家住宅建設が目立ってきている。また、破壊という点では、ゴボウ掘り用のトレンチャーによる攪乱は、深いところでは、ローム層を20cm以上に達し、遺構内の覆土・遺物を逆転させていることも埋蔵文化財にとっては損失も大きいといえよう。

2. 調査の概要と経過

表土に瓦礫が約20cm程度あり、ローム層をいれてあり、それをはぐと縄文土器の包含層を確認できた。遺構は2基の土壇のみであった。1号土壇のプランは、径150cmで北側は県道下にはいつている。深さ30cmを測る。ほぼ円形を呈すると推定される。壁はほぼ垂直に立ち上がり、壇底は平坦である。覆土は、褐色土層でしまりがある。調査面積が非常に狭く遺構を完掘できなかったが、遺跡がさらに南側へも広がっていることが確認できた。

III. 西ノ原遺跡第 11 地点

3. 遺 物

図番	器形・部位	文 様 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備 考
第 7 図 1	深鉢 口縁部	隆帯による区画文を施文。区画内を篋状工具で整形。	少量の砂粒を含む	1 号土壇出土
2	" "	斜状の平行沈線による文様。口唇部内側にも施文。その直下に横位に細い沈線が 1 条めぐる。	小礫を含む, 赤褐色	"
3	" 口頸部	幅広い隆帯を施している。	小礫を含む, 赤褐色	"
4	" 胴 部	沈線による区画文内の縄文は燃系 R を施文。	緻密, 橙褐色, 良好	"
5	" "	微隆帯直下に 1 条の沈線が横走し原体 L { $\frac{R}{R}$ } の縄文を縦位に施文。	緻密, 黒褐色, 良好	"
6	" "	沈線 2 条を縦走させている。	緻密, 暗褐色, 良好	"
7	" "	地文に条線が縦位に描かれている。	緻密, 黄褐色 内暗褐色, 良好	"
8	" "	磨消縄文, 地文は原体 R { $\frac{L}{L}$ } の縄文を縦位に施している。	緻密, 褐色・内暗褐色, 良好	"
9	" "	燃系 R が施文される。	緻密, 褐色・内黒褐色, 良好	"
10	" "	磨消懸垂文をもつ。地文の縄文は原体 R { $\frac{L}{L}$ } の縦位施文。	小礫を含む, 赤褐色 内灰褐色, 良好	"
11	" "	沈線の懸垂文が施される。地文の縄文は原体 R { $\frac{L}{L}$ } を縦位施文。	砂粒を含む, 橙褐色, 良好	"
12	" 口縁部	口縁部は緩く内彎し, 2 本の沈線がめぐる。地文に原体 L { $\frac{R}{R}$ } を横位に施文。	緻密, 橙褐色, 良好	包含層出土
13	" 胴 部	沈線による文様。地文は原体 R { $\frac{L}{L}$ } の縄文を縦回転。	小礫を含む, 灰褐色, 良好	"
14	" "	原体 R { $\frac{L}{L}$ } の縄文を横位施文。	小礫を多く含む, 赤褐色, 良好	"
15	" 頸 部	太い弧状の隆帯に画される。地文は原体 R { $\frac{L}{L}$ } の縄文を横位施文。	砂粒を含む, 橙褐色, 良好	"
16 19	" 胴 部	2 本の沈線間が磨消される磨消懸垂文をもつ。原体 L { $\frac{R}{R}$ } の縄文を縦回転した施文。	16. 小礫を含む赤褐色, 良好	"
20	" "	原体 R { $\frac{L}{L}$ } の縄文を縦位に施文。	白色粒, 砂粒を含む橙褐色, 不良	"
22	" "	16, 17 と同一個体	小礫を含む, 暗赤褐色, 良好	"
23	" 口縁部 (キャリバー形)	隆帯による渦巻文と沈線による区画文, 区画内の地文は原体 L { $\frac{R}{R}$ } の縄文を横位施文, 隆帯下の地文は L { $\frac{R}{R}$ } の縄文を縦位に施文。	小礫を含む, 橙褐色, 良好	表土出土
24	" "	隆帯と沈線による区画文, 地文は原体 L { $\frac{R}{R}$ } の縄文を横位に施文。	緻密, 灰褐色, 良好	"
25	" "	沈線による区画文, 地文は原体 L { $\frac{R}{R}$ } の縄文を縦回転して施文。	緻密, 灰褐色, 不良 (二次焼成)	"
26	" "	沈線による区画文。	小礫を含む, 赤褐色, 良好	"
27	" "	口縁部に 2 条の沈線がめぐる。	小礫を含む, 赤褐色, 不良	"
28	" "	原体 R { $\frac{L}{L}$ } の縄文を横位に施文。	緻密, 暗赤褐色, 良好	"
29	" "	橋状の把手をもつ。	金雲母, 砂粒を含む 黄褐色, 良好	"
30	" 胴 部	地文は深い縦位の沈線を施し, S 字状の小隆帯を貼り付けている。	緻密, 赤褐色, 良好	"
31	" "	原体 R { $\frac{L}{L}$ } の縄文を縦位に施文。	小礫を多量に含む 茶褐色, 良好	"
32	" "	無文帯の地文に沈線を施文。	緻密, 灰褐色, 良好	"
33	" "	原体 R { $\frac{L}{L}$ } の縄文を横位に施文。	白色粒, 小礫を含む 橙褐色, 不良	"
34	" "	沈線間が磨消される磨消懸垂文をもつ。地文は原体 L { $\frac{R}{R}$ } の縄文を横回転で施文。	緻密, 暗灰褐色, 良好	"

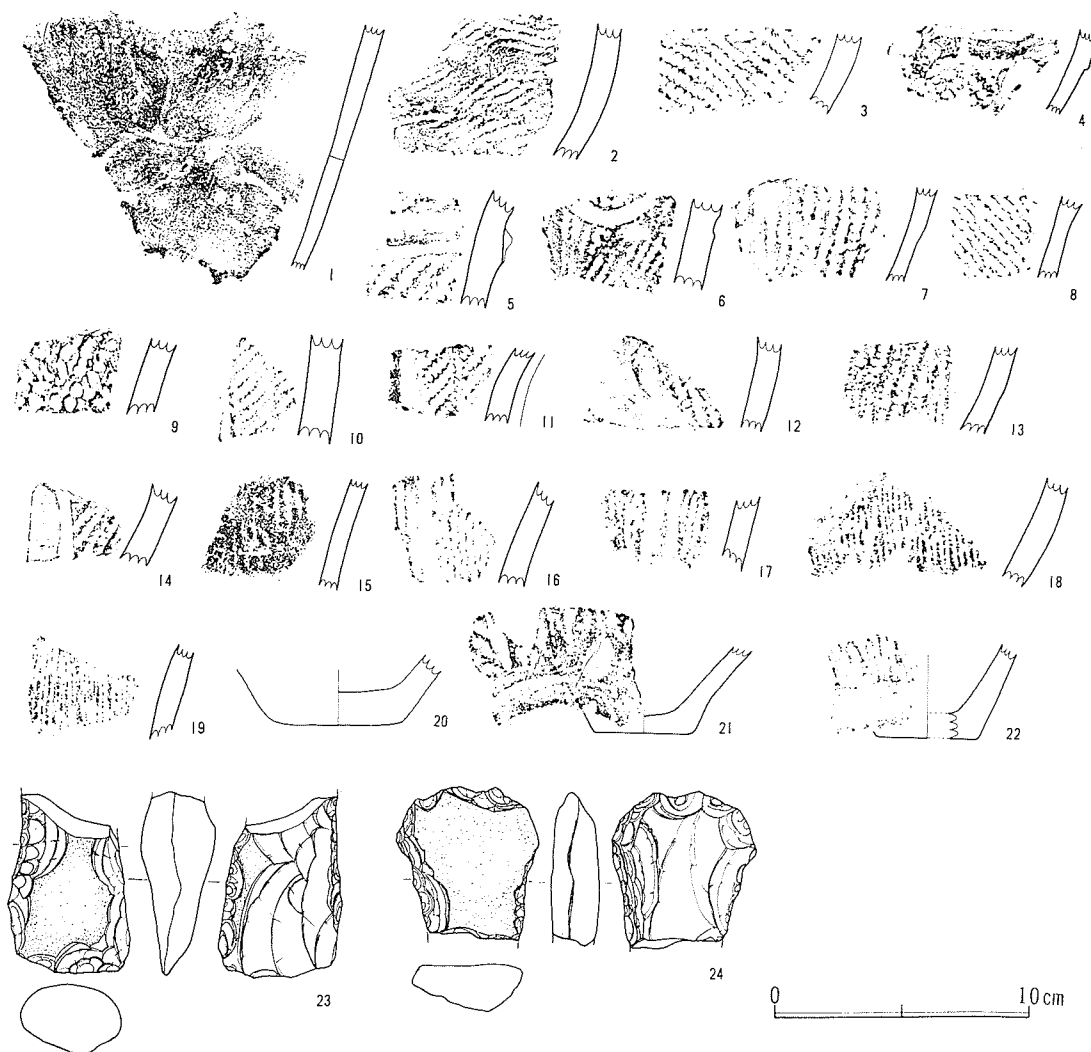
3. 遺 物

第 7 図 土壙，遺構外出土土器 ($\frac{1}{3}$)

III. 西ノ原遺跡第11地点

図番	器形・部位	文 様 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備 考
第8図 1	深鉢 胴 部	無文。	白色粒を多く含む 明褐色，良好	表土出土
2	“ ”	原体L { $\frac{R}{R}$ }の縄文を斜位に，その下に横位に施文している。	白色粒，小礫を含む 暗褐色，良好	“
3	“ ”	原体L { $\frac{R}{R}$ }の縄文を縦回転施文。	小礫を含む，暗褐色，良好	“
4	“ ”	幅広い隆帯と沈線による区画文様，区画内は原体L { $\frac{R}{R}$ }の縄文を縦位に施文。		“
5	“ ”	隆帯と沈線による文様で，原体R { $\frac{L}{L}$ }の縄文を縦位に施文。	小礫・砂粒を多く含む 暗褐色，良好	“
6	“ ”	弧状を描く1条の沈線と原体L { $\frac{R}{R}$ }の縄文を横回転。	緻密，明褐色，良好	“
7	“ ”	原体R { $\frac{L}{L}$ }の縄文を斜位に施文。	緻密，明褐色，良好	“
8	“ ”	原体L { $\frac{R}{R}$ }の縄文を縦位に施文。	白色粒を含む，灰褐色，良好	“
9	“ ”	原体L { $\frac{R}{R}$ }のあらい縄文を横回転させている。	緻密，赤褐色，良好	“
10	“ ”	沈線が縦走。原体R { $\frac{L}{L}$ }の縄文を縦位に施文。	砂粒を含む，赤褐色，良好	“
11	“ 頸 部	原体R { $\frac{L}{L}$ }縄文を縦位に施文，隆帯により区画されている。	小礫を含む，褐色，良好	“
12	“ 胴 部	磨消縄文。地文には原体R { $\frac{L}{L}$ }の縄文を横位に回転施文。	白色粒を含む，暗褐色，良好	“
13	“ ”	原体R { $\frac{L}{L}$ }縄文を縦位回転。	小礫・砂粒を多く含む 明褐色，不良	“
14	“ ”	沈線と磨消文による懸垂文をもつ。地文は原体R { $\frac{L}{L}$ }縄文を縦位に回転。	砂粒を多く含む，暗褐色，良好	“
15	“ ”	磨耗が著しい。燃糸Rが施される。	緻密，黄褐色，良好	“
16 17	“ ”	沈線と磨消文による懸垂文。地文は16が燃糸R，17は燃糸Lである。	砂粒を含む，赤褐色，良好	“
18	“ ”	細かい燃糸Rを縦位に施文。磨滅が著しい。	緻密，灰褐色，良好	“
19	“ ”	地文に条線が施文される。	白色粒を含む，灰褐色，良好	“
20	“ ”	底部外径5.5cm。	白色粒を含む，赤褐色， 内暗褐色，良好	“
21	“ ”	推定外径4.0cm，沈線と磨消による懸垂文が施文されている。地文は原体L { $\frac{R}{R}$ }の縄文を縦位回転して施文。	緻密，黄褐色，良好 内黒褐色	“
22	“ ”	外径3.5cm，燃糸Rを施文。	小礫・白色粒を含む 橙褐色，良好	“

3. 遺 物

第 8 図 遺構外出土遺物 ($\frac{1}{3}$)

石 器 観 察 表

図番	種 別	出土層序	石 質	遺存状態	重量 g	自然面の有無	備 考
第 8 図 23	打製石斧	表土中	砂 岩	半 欠	105	片面	短冊形を呈する。刃部は調整剥離が施され、側縁は粗い剥離がおこなわれている。
24	"	"	凝灰質砂岩	"	80	"	胴中位が括れるいわゆる分銅形を呈する。頭部は側縁に比べ、粗い剥離がおこなわれている。

図版 1 西ノ原・東久保南遺跡



西ノ原・東久保南遺跡周辺の航空写真

図版 2 西ノ原遺跡第11地点



(1) 遺跡近景



(2) 発掘作業風景

図版 3 西ノ原遺跡第11地点

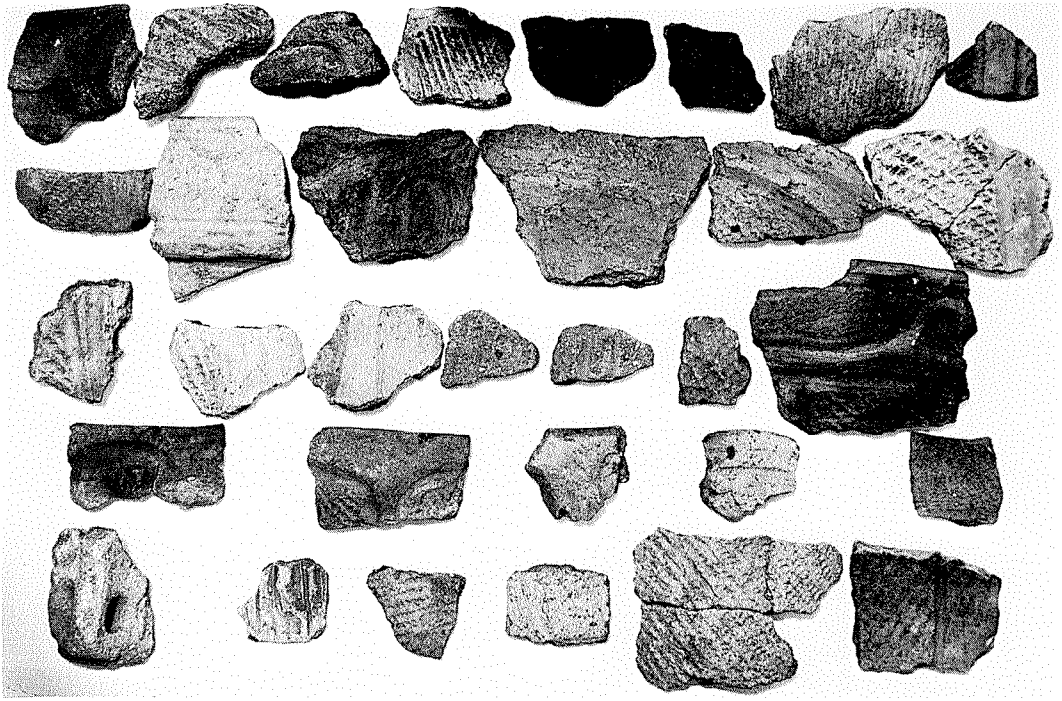


(1) 調査区

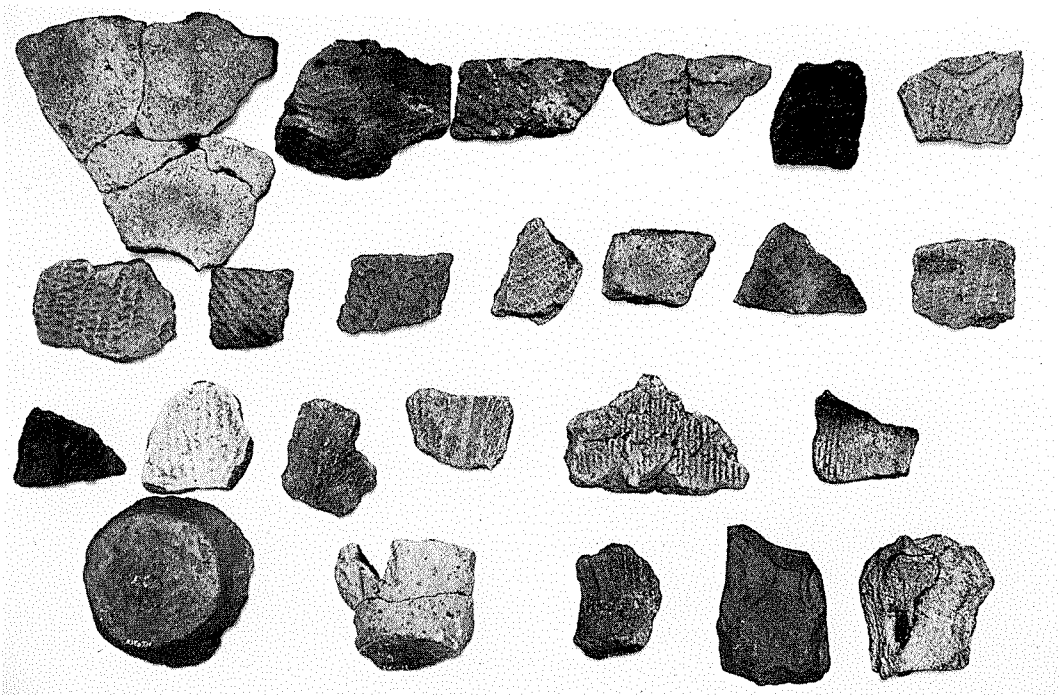


(2) 1号土坑

图版 4 西ノ原遺跡第11地点



(1) 出土遺物



(2) 出土遺物